

平成27年7月

第 3 号

京都教育大学
附属京都小中学校
東櫻同窓会

東櫻だより

〒603-8163

京都市北区小山
南大野町1番地
TEL

(075)431-7131

発行人 堀場 厚会長

題 字 岡田直樹学校長

印刷 中西印刷

—「同窓生のつどい」報告号—



東櫻同窓会ホームページアドレス <http://www.touou-dousoukai.jp/>



ご挨拶

同窓会会長 堀場 厚



ご挨拶

学校長 岡田 直樹

先日、ある会合で京都大学総長の山極壽一先生のお話を聴く機会がありました。前任の松本総長は京都大学をより国際的で開かれた大学にしようと大変な努力をされ、改革実績を示された方でしたが、山極先生はその後を継がれた期待の総長とされています。ご専門

は人類学、霊長類学で、アフリカでゴリラやチンパンジーの研究をされた第一人者です。

色々と示唆に富んだお話を頂きましたが、その中で特に印象に残ったお話が近年のIT文化のお話でした。インターネットは答えを得る手段としては大変優れて便利ですが、人間が本来大切にしていた人との「face-to-face」のコミュニケーションや、答えを得る為の努力というものが欠落しているというのです。

確かに、「LINE」「Facebook」等のソーシャルネットワークは相

手の反応が人間的な直接対話でなくクリック数や返信速度で評価されかねないしくみになっており、すぐ返信しなければ仲間外れにされてしまう事が多々あるようです。二四時間、何でもすぐに答えてくれる人が本当の仲間でしょうか。

本来の人間社会は相手がそこに居ずとも相手を慮ることで成り立つものだと思います。ひとりである時間をもち、相手の世界も重んじる。個々を尊重できてこそ本当の仲間だと思います。

利便化、高速化が進む中で物事の本質を見極め、昔から大切にされてきた慣習や対話を変わず大事にし続けるのは難しいことですが、未来を担う若人や子どもたちには是非とも人間的なコミュニケーションを大切にしていってほしい。本日の仲間を沢山作ってもらいたいと願っています。

東櫻同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じ上げます。また平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

昨年四月に本校校長として着任致しまして、あつと言う間に一年が過ぎたように感じています。この一年の間に九年生学習旅行、合唱コンクール、紫翔祭、四年生学習旅行、紫友祭などの学校行事、また教育実践研究協議会などの研究発表に出来る限り参加をしてきました。これは児童・生徒と一緒に過ごす時間を大切にしたいと考えてきたからです。

このように児童・生徒と接してみているのは、この年頃の子供達は短期間にこれ程までに成長するのかという言う事です。さまざま場面です。成長を目にすることが出来ました。特に印象に残ったのは昨年の四月に新一年生

として入学して来た二年生が、今年の四月の入学式後披露してくれた「お迎えのことば」です。昨年、入学して来た頃はまだ幼さの残る顔立ちでしたが、長い台詞も大きな声で堂々と新一年生に話しかけていた姿はすっかり先輩の顔立ちになっていました。それを見ていた新一年生が来年どのような「お迎えのことば」を披露してくれるか、今から楽しみにしています。

本校では知識の習得だけでなく、学校行事・クラブ活動などを通して、人との繋がりがや自らの役割を考える心の教育も大切にしています。このようなバランスのとれた教育が子供達の成長にも大きく寄与しているのではないかと、この一年を振り返って感じています。

今後共、このような本校の教育・伝統が継承できますよう同窓会の皆様方にも尚一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



ご挨拶

同窓会副会長 大倉 治彦

東櫻同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は同窓会活動と母校の教育活動に、ご支援ご協力頂き誠に有難うございます。

小中の同窓会が一つになって四年になりますが、昨年は六月に「同窓生のつどい」が盛大に行われ、会としての一体感がさらに高まりました。これも、「つどい」の企画・運営に携わられた幹事の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。昨年は附属高校の創立五〇周年にあたりましたが、今年は附属高校サッカー部が五〇周年を迎え、三月に祝賀会が行われました。小学生的の時に紫サッカー少年団（現紫FC）に入ったことが、私とサッカーとの出会いです。当時附属中学にはサッカー部がなかったの、バレーボール部に所属していましたが、高校に入るとまたサッ

カー部に入学しました。高校からゴールキーパーに転向し、結局、大学でも体育会サッカー部でプレイを続けることになりました。

社会人になるとボールを蹴る機会は減りましたが、地元京都サングの後援会副会長を務めるなど、サッカーとのつながりは続いています。五〇歳を超えた今でも年に数回サッカーをしています。この年になってもゴールキーパーを

しているなど、若い頃には到底想像できませんでした。また、附属で一緒にサッカーをした仲間とのつきあいは今でも続いており、これからも、この絆を大切にしていきたいと思えます。

若い頃に、勉強やサークル活動を通じてできた友情は有難いものです。同窓会の活動がこの友情の深耕に、少しでも役立つことができれば嬉しいことだと思います。



ご挨拶

同窓会副会長 鈴木 順也

今年の入学式に同窓会の副会長として出席し祝辞を述べる機会がありました。まさに今日入学する新一年生を前に、同窓会の立場で何を話せばいいのかと思索しつつ、当日を迎えました。自分自身の入学式のことには僅かに記憶しているだけであり、全く参考になりません。また近年は息子たちの入学式（他校）への出席の機会があったものの、それは父親の立場での関心であり、今回の祝辞とは趣旨が異なります。式典は東エリア（中学校）の講堂で挙行されました。私が講堂に入るのには、中学校を卒業して以来、実に三五年ぶりです、その事実感激しながら来賓席に座りました。中学生のころ、合唱コンクールや学習発表会の演劇などで出入りしていた講堂は、現在は装備や建材が更新されているほかは、基本的な構造は当時のままで非常に懐かしく感じられました。さて、

式典は緊張感の中にも初々しい雰囲気で行われました。新入生の式典に臨む態度は行儀よくしつかりしており、また校長および来賓の方々の祝辞は明瞭完結でした。私は、わが国の未来を担う後輩たちに対して、附属京都小学校で学んだ人々の多くは世の中で活躍しており、君たちも京都だけでなく世界で活躍する人になってほしいという祝辞を贈りました。新入生が私のメッセージをどれだけ理解したかはわかりません。むしろこれは、新入生への祝辞という場を借りて、私が母校に対して感じていく気持ちに率直に発したような気がします。私たちが附属京都小学校・中学校で学び培った教養と見識が、その後の社会人としての基礎の重要な部分を形成していることは、疑いのない事実です。後輩たちは、私たち先輩を超えて大きく育ってほしいと思います。

附属京都小中学校

「同窓生のつどい」のご報告

実行委員長 細川 浩三

平成二六年六月二八日(土)京都ホテルオークラにて、「同窓生のつどい」が開催されました。今回は、小学校昭和五九年から六一年卒、中学校三九期から四一期までの同窓生で実行委員会を発足させました。

平成二二年に実現した九年制の小中一貫校への再編に伴い、翌二三年六月に小中合同の東櫻同窓会(仮称)が発足しました。そして、「同窓生のつどい」開催後、いよいよ我々が幹事学年のバトンを受け取り、平成二四年七月「同窓会だより(仮称)」小中統合記念号を発行後、「同窓生のつどい」に向け、いよいよ動き出すことになりました。何から手を付けていか分からないまま時間ばかりが過ぎていく状況で、理事会や前回の幹事学年の諸先輩方の多大なるご協力のおかげで、なんとか「つどい」開催への骨組みが出来上が



りました。これと並行し、平成二六年四月には「東櫻だより」第二号も発行しました。さて、「同窓生のつどい」ですが、当日の全出席者は二四九名、うち御来賓や恩師の方、二三名となりました。当初目標にしていた三〇〇名を超えることはできませんでしたが、多くの諸先生方、同

窓生に出席していただくことができました。

懇親会のオープニングを飾ったのは、中等部・吹奏楽部の演奏です。現在七年生から九年生までの三七名で活動されており、富永優先生指揮の下、明るくはつらつとした演奏を披露してくれました。

続いて、東京都交響楽団首席チェロ奏者でもある古川展生さん(小昭六一年卒、中四一期卒)のチェロコンサートが行われました。古川さんは、映画『おくりびと』で主人公が河原で弾くチェロを演奏されていることで有名ですが、今回のコンサートでは、サン・サーンス「白鳥」、ショパン「別れの曲」、ピアソラ「リベルタンゴ」、塩入俊哉「約束」などフルオーケストラのような深みのある素晴らしい演奏と軽妙なお話を披露してください、予定された二〇分をあっという間に迎えてしまいました。

公演に続き、同窓会の役員を代表して、大倉治彦東櫻同窓会副会長(小昭四六年卒・中二六期卒)にご挨拶いただき、さらに京都教育大学、位藤紀美子学長より祝辞を賜りました。その後の鏡開きは、岡



大倉副会長



位藤学長

田直樹 小中学 校長、 大倉治 彦東櫻 同窓会 副会長 など学 校関係 者並び に同窓 会関係 者で行 い、乾杯の音頭は、岡田直樹小中学校校長より賜りました。 しばらくの歓談、福引では、恩師の先生方や久しぶりに会う同窓生とのにぎやかな時間を過ごすことができました。小学校恩師は一〇名(梅本千里先生、渡辺武先生、迫田恒夫先生、今西幹郎先生、畑井多津子先生、山川信晃先生、清水弘先生、丹羽光子先生、吉川禮三先生、西澤徹先生、倉中増夫先生、山口陽子先生)、中学校恩師は八名(岡成子先生、高乗秀明先生、高屋定克先生、竹中宏文先生、山中隆先生、川田雅康先生、谷尾憲三先生、高橋要先生)が来



歓談の様子

てくださいました。

会場の熱気が上がる中、アンサンブル東櫻のコーラスです。指揮は、桑原真紀子さん、伴奏は岡本敦子さんで、NHK復興支援ソングである「花が咲く」などを歌っていただきました。よく練習された、会場に響く美しいハーモニーに心が洗われる思いでした。

最後に、湧口都さん（小昭六一卒、中四一期卒）のピアノ伴奏で出席者全員が校歌を斉唱しました。小学校の校歌と中学校の校歌は、最後のフレーズが卒業当時のものと異なっているため、戸惑わ

れている同窓生も多くいらつしやいましたが、会場中に校歌が響き渡り、今回の「同窓生のつどい」も大盛況のうちに散会となりました。

近年は、FacebookやLINEといったSNSが普及し、旧友や恩師の先生と容易に再会を果たすことができず。このような社会の中で、幹事学年として活動したおかげで、当時の仲間に出会い、繋がることができました。現在、同窓生は様々な職に就き、様々な状況でストレスの多い生活を送っていることでしょう。しかし、初めは幹事の活動や「同窓生のつどい」への出席に二の足を踏んでいた友人たちも、SNSや「同窓生のつどい」を通して、素の自分を見せ合うことができたように思います。また、当時の思い出を共有することで、京都教育大学附属京都小中学校への母校愛を感じました。

今回、幹事学年として『東櫻だより』や「同窓生のつどい」の活動をする中で、様々な方に助けていただき、本当に有難うございました。また、ご迷惑をおかけすることも多々あったと思います。この場をお借りしてお詫び申しあげ

ます。伝統ある「東櫻だより」の発刊と「同窓生のつどい」を成功させるべく、今後より一層皆様にお力添え頂きたく宜しくお願いたします。次回の「同窓生のつどい」がさらに盛大に開催されることを願い、報告とさせていただきます。

最後に福引の景品をご提供いただきました方々をご紹介します。

- 1 ワコール 下着セット 4名様
- 2 塚本能交様（中昭三八年卒）
月桂冠 上撰（鏡開き用）二樽
大倉治彦様（中昭四九年卒）
大倉 博様（中昭五七年卒）
- 3 京都サンガFC サッカー観戦ペアチケット 3名様
- 4 細川浩三様（中昭六二年卒）
アトリエミツチエ
フラワーアレンジメント 5名様
- 5 石黒美知子様（中昭六三年卒）
ヴィッセル神戸
サッカー観戦ペアチケット
- 6 出町輸入食品 コーヒー 10名様
- 7 中井博之様（中昭六三年卒）
煌庵 お食事券 3名様
- 8 亀末広 和菓子 3名様
- 9 吉田かな女様（中昭六三年卒）
シャトレーゼ 洋菓子詰め合せ 3名様
- 10 野田大介様（中昭六三年卒）
趣味雑貨こころ 和雑貨 3名様
- 11 山本佳陽子様（中昭六三年卒）
シャルムグリユン パン商品券 20名様
- 12 梅本晋吾様（中平元年卒）
京都ホテルオークラ お食事券 1名様
京都ホテルオークラ様

（スペースの都合上、最終卒業年のみ記載）

小中の学校行事再編において

中高等部副校長 垂井 由博

本校は、八年間の研究過程を経たのち、平成二二年度より正式に小中一貫教育学校として発足しました。この研究期間には、小中の学校行事再編も行い、一年生から九年生までが集う行事や、様々な学年の組み合わせによる縦割り行事が生まれました。これらは一見、何気なく従来の小中の行事を融合配置したようにも見えますが、実は九年間で効果的に子どもを育てる仕組みが隠されています。

本校は小中に分かれていた時代から、同一理念のもと、行事を通して子どもを育てることを大切にしてきた学校です。この理念は時代を経ても変わることはありません。ですから、たとえば、大人になつたときにその意義を同窓生のみが知ることとなる、従来の中学校の臨海学舎、林間学舎などは、そのままの形で健在です。合唱コンクールも五年生から参加することになって、今も健在です。

このように、集団で取り組む行事は最後の発表場面だけが注目されがちですが、本当の教育は、実はその取り組み期間に内在しています。取り組み期間には、まるで社会の縮図のように、学級や学年集団で様々なドラマが生まれます。それは時には、美しい感動物語ではありません。トラブルも発生します。そうした中で、子どもたちは、一つのことをなし得るために徐々に集団の一員としての役割を学び、着実に人間関係を形成する力やコミュニケーションの能力を身につけていきます。

九年生の学級劇はその集大成となります。脚本選定から監督、音響、大道具、小道具に至るまですべて生徒の手でやっています。発表場面において脚光を浴びるのはたった数人のキャストだけかもしれませんが、劇の成功を学級の皆で手を取り合って喜ぶ姿に、一人一人がその上演までに果たした

役割における垣根はありません。今ここにきて、巷では社会生活に必要な資質や能力を切り口に教育のあり方を見直そうとする動きが盛んです。西欧諸国では「キーコンピテンシー」と呼び、日本においては「二二世紀型能力」(国立教育政策研究所)などといま

す。単なる知識や技能の蓄積ではなく、社会生活を営むときに必要となる資質や能力、たとえばコミュニケーション能力、チームワークなどを育もうというのです。何を今更という感があるのは、まさに本校では、行事などを通して育成しよう



としてきた資質や能力そのものなのだからかもしれない。しかしながら、今後はこうした資質や能力の育成に向けて、学校の教科授業のあり方を模索すべく、舵を切っています。



きたいと考えています。さて、附属京都の教育は何を目標しているのかと聞かれることがありますが、それは

「今を生きる力があるのは本校で培った力のお陰」という言葉に表されているのかもしれませんが、単なる知識や技能の蓄積ではなく、それらを活用する力であり、一言でいえば、将来社会で「真に生きる力」の醸成ということになります。

末筆ながら、私も本校同窓生の一人ではありますが、日頃より同窓生の皆様方のお力添えがあつての学校であると感謝しております。今後も本校の発展のために、同窓生の皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしく申し上げます。

初等部四年生の当番活動

初等部副校長 小原 武

東櫻同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

この度、平成二十七年四月より、初等部副校長の任を拝命いたしました。私は京都市内の小学校に九年間勤務した後、当時の附属京都小学校に着任させていただきました。今年度で一九九年目となります。昨年度まで四年間は中等部に在籍しておりましたので、久しぶりに初等部に戻り、副校長として意気込みも新たに精一杯努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、皆様ご承知の通り、本校は小中九年間の一貫学校となり、今年度で六年目を迎えています。これまで、附属京都小学校の六年間と附属京都中学校の三年間で考えていた子どもたちの育ちを、初等部、中等部、高等部という九年

間、四・三・二という枠組みで捉え直し、これまで積み重ねられてきた附属京都のよき伝統を大事にしながらも、全国に先駆けた先進的な教育活動に取り組んでおります。現在、初等部校舎には、一年

生から四年生までの教室、中等部校舎には、五年生から九年生までの教室があり、初等部校舎では四年生が最高学年となりました。そこで今回は、初等部の最高学年である四年生が担当する当番活動についてお知らせしたいと思います。当番活動とは、いわゆる委員会活動のようなもので、従来の小学校であれば六年生が担当する仕事ですが、本校では四年生が担当しています。

当番活動には、放送、飼育、図書、園芸の四つのグループがあり全員がどこかのグループに入っています。放送当番は、朝や中間休みの放送、掃除や下校の放送を担当しています。決まったセリフだけな



く、「今日はいいい天気ですね。みなさん外で元気に遊びましよう。」「教育実習の先生とはもう仲良

くなれましたか。」など、独自に工夫した呼びかけも行っています。

飼育当番は、ウサギやニワトリ、そしてクジャクの世話をしていきます。先日は、飼っている動物たちを朝会で紹介しました。

図書当番は、パソコンを使って図書室での本の貸し出し業務を担当します。小さい子たちにも親切丁寧に対応する姿が見られます。

園芸当番は、季節に合った花を選んで花壇に植え、その水やりや草取りなどを行っています。地道な作業ですが、皆ずすんで取り組んでいます。

このように、四年生が初等部の最高学年となり、自覚と責任感を帯び、持って当番活動に取り組む姿は、

とても頼もしいものがあります。その他にも、小中学校となつて以来、例えば、初等部の子どもたちが中等部のお兄さんお姉さんに大きな憧れの念を抱くようになったこと、五・六年生が八・九年生の姿を見てより高い目標を持つようになったこと、また、高等部八・九年生が年下の子たちに優しく接する場面が増えたことなど、様々な面で小中一貫校のよさを感じることが出来ます。

これからも附属京都小中学校を温かく見守っていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



◆ 恩 師 点 描

「懐かしい京小時代」

松田 邦広



私は、昭

和五二年四月から平成一四年三月まで、教師生活三八年

の二五年間を附属京都小学校でお世話になりました。沢山の子どもたちや教職員の方に出会い、沢山のことを学ばせていただきました。私を教師として育ててくれたのは附属京都小学校のおかげと感謝しています。

附属京都小学校の魅力は、臨海や野外・宿泊スキーなど沢山の行事があったことです。でも、しんどくて「もう、イヤ。二度と行きたくない。」と思つたことも事実。そうそう、こんなこともありました。宿泊スキーの夜、みんなの部屋で枕投げをして田中先生に叱られたことがありますね。体育の

時間にアメフトをやつたこともありましたが。楽しかったこと、色々ありすぎて、ここには書き切れません。

また、新しいことも経験させてもらいました。附属京都小学校に国際学級が設立され、その初年度にオーストラリアから来た兄弟二人から始まりました。手探りで授業を進めていきました。その後、ベトナムから来た男の子とオーストラリア弟妹を加え五人になりました。これも楽しかったですよ。

今、私は伏見工業高校で週四日、地学の非常勤講師をしています。大学時代、将来は高校の地学の教師を目指していましたが、募集がなく、小学校の教師になりました。でも、今では小学校の教師で良かったと思つています。(昭和五二年度～平成一三年度在籍)

「附属京都中に感謝！」

今井 雅一



お久しぶりです。昭和五九年度から平成九年度まで、

当していました今井雅一です。昨年、定年を迎え教職を辞めたのですが、そのまま勤務校である宇治市立東宇治中学校に残り、非常勤講師として活動しています。

附属京都中学校には一四年間勤めていたので、いろいろな思い出があります。とりわけ、宇治から通勤電車で揺られ、京都駅の雑踏を抜け、地下鉄鞍馬口駅で地上に出た時の京都市街北部の落ち着いた佇まいは、今でも忘れられませんが。すばらしい環境に学校があつたなあと思います。

ところで、今や日進月歩の状況にある教育界で、六二歳の私が現役でいられるのは、附属京都中学校で生徒の皆さんを通して「学びの姿を見る」視点と技術を学んだこと、そして京都教育大学国文学

科を通じて最新の学習指導情報を入力し続けていること、この二点にかかっています。どんな職種でも、現実を見る目と情報の更新が大切だと思います。

いつまでも現役でいたい私を育ててくださった附属京都中学校の教職員ならびに同窓生の皆様に御礼申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

国語科(昭和五九年度～平成九年度在籍)

「なつかしい十年間の思い出」

中東 朋子



昭和五八年四月から平成五年三月までの十年間、に組の担任として

附属京都小学校で過ごさせていただきました。給食や掃除での交流、運動会や遠足など様々な行事での交流、臨海学舎や修学旅行での交流等を通して、多くのみなさんと関わらせていただきました。「に組との合同学習」という授業

で、固いサツマイモを協力して切ることができるようにと、「イモキレビッチ・テモキレスカヤ」という名前を付けた妙な道具を開発したこともありました。

今でも、附属京都小学校の卒業生で活躍されている方に出会うことがあります。「に組の〇〇さんの学年です。」とか、「△△君と一緒に遠足に行きました。」と、に組の友達の名前を覚えてくれているので、大変うれしく思います。

教育大学に附属特別支援学校がありながら、附属小中学校にも障害のある子どものための学級があるというのは全国的にも貴重な存在です。今、「インクルーシブ教育システムの構築」にむけて大きく動き始めています。障害があってもなくても、共に学び、共に育ち、共に生きる。そんな世の中を目指して、附属京都小中学校が先駆的な取り組みとなることを願ってやみません。

(昭和五八年度〜平成四年度在籍)



「花そ昔の」

河原 雅人



現在、西京区にある京都市立椋原中学校に勤務しており、附属京都中学校時代と同じく陸上競技部

を見ていると、部員達の走る姿を見てみると、附京中時代のことや、自分自身の中学生の頃が懐かしく思い出されてきます。

附属京都中学校に着任したときは、自分自身の母校に勤務できるという無邪気な気持ちでいたのですが、先生同士の授業研究に対する真摯な姿を目の当たりにし、気持ちを引き締め直しました。校内の研究授業や研究発表会での公開授業では、指導案を書くために眠れぬ夜を過ごしたことが幾度もありましたが、生徒たちの頑張りのお陰で研究授業をやり遂げることができました。

また、三大行事や学習発表会など、様々な行事も充実していましたが、一時間から一時間半になら

とする劇や、難度の高い四部合唱の曲を、学級ごとに完成させる姿に附属京都中学校生の底力を感じたものです。

さらに、D組の担任をすることもできましたが、十分なことができずにいる自分の未熟さを痛感すると共に「ひとりひとりを大切に

する」という教育の原点を見た思いがしています。附属京都中学校を去って二〇年が過ぎましたが、附属京都中学校で学んだ「一時間一時間の授業を大切に

する」という当たり前のことが、生涯一教師としての私の信条となっています。社会科（昭和五九年度〜平成五年度在籍）

「浦島太郎は今」

波多野達二



「先生、お元気ですか。この四月に、子どもが小学校に入学するんです。先生にお話を伺いたい

ですけれど、子どもを連れて遊びに行つていいですか？」電話の向こうの教え子の礼儀正しく若々しい声に、思わず目頭が熱くなったのは、ついこの間のことです。恩師なんて言われると何やらこぞばいような気もしますが、私は、担任として五年間、図工の非常勤講師として一八年間、附属京都小学校でお世話になりました。

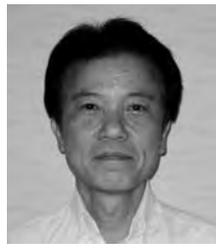
附属小学校で印象に残っていることは、二つあります。一つは、山のように大きく海のように深い授業というものの面白さ難しさを身をもって学ばせてもらったことです。そして、もう一つは、子ども達の素晴らしい可能性を心から感じ取れたことです。当時、ライフワークのよう

に書いていた学級通信の子ども達の詩や作文は、今も教師としての私の背中を押してくれています。現在は、佛教大学で図画工作科教育の授業をしています。「つくりだす喜びを味わう授業」の創造について学生と共に考えています。大きくて深い授業はなかなか動いてくれませんが、一%ずつ前進できるように頑張ろうと思つていま

も達に会えます。その日の来るのが待ち遠しくて仕方ありません。(昭和五九年度～昭和六三年度在籍)

「二四年間を振り返って」

杉森 徳行



私が附属
京都小学校
に赴任した
のは採用三
年目、二四
歳の時でし

た。最初に担任したのは四年生で、この学年は卒業までの三年間を担任しました。非常に個性豊かな子どもたちが多く、学級としてまとめるのは大変なところもありましたが、今でも心に残る学年です。卒業の時にもらったタペストリーは、一人一人の名前や言葉が刺繍で記され、今も我が家の壁を飾ってくれています。

数ある勤務時の思い出の中でも、宿泊行事が非常に魅力的だったことを覚えています。中でも、四・五年生で実施していた三泊の臨海学習は、足のつかないところで泳

ぐ遠泳や磯浜水泳が大きな目標となり、子どもたちの泳力を確実に伸ばしました。他の宿泊行事も確かなねらいとよく練られた活動で構成され、附小教育の骨格の一つを成していたように思います。

教師としての経験が浅い時期に赴任した私にとって、個々に教科指導の専門性をもった同僚の先生方からの学びは、以後の教師生活のベースとなり、校長職にある現在では自校教職員に指導する際の拠り所となっています。私自身、残りの教員生活においても附小の一四年間の経験を大切にしたいと考えていますし、教科指導を先導する附属京都小中学校であり続けてほしいと願っています。(昭和五九年度～平成九年度在籍)

「光となつて」

西村 弘滋



とにかく
印象は、校
歌でした。
三拍子の校
歌が心弾
み、何か明

るく希望に満ちた前途を示してくれるような思いでした。今でも時々自然と口ずさむことがありますが。卒業生の皆さんなら、なおさらそうではないでしょうか。

さて、転出して二〇年。今年、京都市立大宅中学校で退職を迎えましたが、その後の人生でやはり中心となるのは三〇代でお世話になった附属でのことです。D組の担任をはじめ、教科指導、生活課程等々、何をとりつてもある種のスタンダードとなり、その後を過ごしました。

また、次から次へと押し寄せてくる行事でしたが、それをしっかりと受け止めて、しかし、その集中力と調整力でうまく生活を日常化させる力の大切さを教えてもらったような気がします。

六〇年の人生の中でたった七年間の世界でしたが、いつもきらつと光っています。振り返ってみれば、それはそこにいた生徒たちがきらつと光っていたからではないかと思えます。校歌の最後、「照り映えよ 栄あれ 附属京都小中学校」のように生徒の光が、学校への光となつて連なっているよう

に思えます。国語科(昭和六三年度～平成六年度在籍)

「日々学習」

岡本 昌人



私ごとですが、中学校の教員生活も三一年目を終えようとしています

ます。ちょうど附属京都中学校に赴任した時は、教員になって六年目の二〇代後半でした。教師としての資質は今も不十分ですが、その頃はまだまだ未熟なところが多く、生徒のみなさんをはじめ保護者や教職員の方々にご迷惑をお掛けしたと思います。この場をお借りし、お詫びをさせていただきますと思います。

在校中は、D組も含め学級担任を四年間させていただきました。これまでも、いろいろな生徒との経験をともにしてきましたが、京中ならではの思い出はたくさんあります。今回の執筆に際し、アル

バムのページをめくると、臨海・林間学習や研修旅行の宿泊学習、学級劇、水泳大会などの行事はもちろん、楽しかった日々が思い出されました。不思議と悲しかったこと、嫌だったことは思い出しませんでした。

また京中では、教員としての素地をたくさん学ばせていただきました。授業の組み立て方、学級づくり、生徒との関わり方など、今までとこれからの教員生活の礎となつていきます。京中で学んだことを大切に、これからの変化の激しい教育に携わっていききたいと思ひます。

最後になりましたが、同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健康を心よりお祈りします。

技術・家庭科（平成二年度～平成六年度在籍）

京小創立百周年記念事業

エピソードや後日譚など

実行委員在校当時の様子を教えてくださいましたので、三、四、五年前の記憶を引っ張り出してみました。

記念式典・祝賀会の開催

百周年までは、懐かしいあの木造の講堂で六、七〇人くらいが集まって総会を開催していました。総会のと淡交社へ出向き、そのご好意で懇親会を催すということがよくありました。

百周年記念式典で凄い人数が集まられたのを契機に、これからは大勢の人が集まれるホテルでやろうということになり、以後、総会行事はほとんど京都ホテルオークラで開催しています。

また、二〇〇二年からは、幹事学年制（四〇歳から四二歳になれば、総会等同窓会のお世話をするというシステム）を採用し、今日に至っています。この美風はこれからも続けて行ってもらいたいと思っています。

百年誌の編纂

松井榮一教授（当時京大教授）に編集をお願いし、会員向けの百年誌を四千部発行しました。今、学校にもほとんど残っていませんが、正確な記述、貴重な資料等が評価され、古本屋ではプレミアが付いているそうです。

このとき、社会科の副読本にもなるものを作ろうと、「子どもの

ための附属百年誌」が当時の教員の手で執筆・編集され、授業で活用されました。

正面玄関修景工事

小学部の校舎、正面玄関の車寄せは、当時ほとんど活用されておらず、子どもたちは東・西昇降口から登下校していました。

百周年を機に、学校の主人公である子どもを、正面玄関から迎え入れてやろうと考え、保護者の指宿真智雄氏に設計を依頼、現在のような正面景観になりました。

ここに「子ども像」を建てたいと考え、卒業生の山崎正義氏（のち母校の校長もお勤めいただく）に制作をお願いしました。最初の案は、比良を望む子ども像で、男の子と女の子が手を重ねている情景でしたが、最終的に今の「おはようの像」に落ち着きました。

百周年までの卒業生の方は、正面階段の左側は行き止まりで、右側から地下室へ行くという光景をイメージされていると思いますが、今は一旦外に出ないと地下室へは行けない構造になっています。

この修景工事には、同窓会から多額のご寄付を頂いたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

築山工事

三方向に開口したトンネルを配した多目的に利用できる築山を野原弘嗣教授（当時京大教授）に設計していただきました。子どもが滑り下りるため、土が削れて大変なので、一部をコンクリートで覆ったり、つつじを植え付けたりしてもらっています。

貨車倉庫

国鉄が貨車を無料でお分けするというので、申し込んで頂戴しました。紫明通りからフェンス越しに貨車をクレーンで吊って運動場に搬入する光景は一見の価値がありました。今では、大分傷みも出てきて、扉の開閉もままならぬようですが、運動場の主みたいに鎮座ましましています。

このほか、国費による木造の図工室の建て替え（一階図工室、二階図書室）もありました。現在、二階は音楽室になり、芸術館と名付けられています。総合遊具の新設（安田治先生の設計）等、いろいろありましたが、このあたりで筆を置きます。

（当時の副校長 迫田恒夫）

◆ 同窓生点描

◆ 小昭62年卒・中42期卒

足立 昌義



この度、「東櫻だより」に寄稿できることを嬉しくおもいます。

附属京都小学校・中学校を卒業して二五年ほどが経とうとしていますが、当時と変わらぬ風景と共に過去の出来事が頭をよぎります。

現在、私は福知山にある成美大学で教員としての職に就きながら、フットボールの指導をしています。五年前までは福知山成美高等学校で教師をしながら高校サッカー部ヘッドコーチとして活動していました。現在も高校サッカー部ヘッドコーチの任は継続し、加えて大学サッカー部の部長兼コーチという立場で、高校・大学サッカーに日々没頭しております。私がフットボールを始めたのは附属

京都小学校グラウンド。フットボールのフの字も知らない私が足を踏み入れてから、ひたすらボールを追っかけ、一度もフットボールから離れることなく、いつの間にかそれが生活の一部となり、人生の基盤となつていきます。指導者となり一五年が経ちます。選手たちのおかげもあり、選手時代では成し得なかつた全国高校サッカー選手権大会、全国高校総体（インターハイ）に京都府代表として出場することもできました。また教え子がJリーガーとして活躍もしてきており、常に子供達の夢と希望とを実現すべく一緒になつて【青春】している毎日です。

学園内人事で大学に異動となつてからは、大学サッカー部創設、さらにはキッズ・ジュニア（五歳～一二歳）のサッカースクールと中学生年代のクラブチームを発足させました。これにより、かねてより抱いていたキッズから学生までの一貫したアマチュアクラブを

形成させることができました。フットボールだけでなく、学習サポート、キッズ・ジュニアダンススクールなども行っています。同じ場所、そしてスポーツによる多世代の交流を通じてみられる姿こそが、スポーツ文化定着の第一歩と捉え、ここから多くのことが発信できたかと考えています。本稿が出る頃には、このクラブは特定非営利活動法人として新たなスタートを切っています。都市部偏重の京都スポーツ事情を変えるべく地方から風を吹かそうと考えています。

今日に至るまで、私の全てがフットボールであり、その始まりは「紫」であり「附属」です。時折試合帰りに通る新町通りの雰囲気、今ある自分の「始まり」と教えてくれています。



◆ 小昭63年卒・中43期卒

ハタヤテツヤ



教育熱
心な母親
の意向
で、抽選
二回・試
験一回と
いう狭き

門をかい潜り、晴れて附属京都小学校に入學してから早や三十数年が経ちました。今年四十代に入る我々はいわゆる働き盛りの世代。各分野で活躍する同級生の近況や子育ての奮闘ぶりを「Facebook」等で知るにつけ、自分も頑張らねばと奮起させられています。

私は現在東京を拠点に、ピアノスト、作曲家として映画やドラマの音楽制作、歌手のレコーディング、コンサート活動などの仕事をしています。

自らを振り返ってみれば小さい頃からの音楽馬鹿でして、小学校時代は放課後の音楽室に女子を集めてショパンを披露し得意気になつたり、中学校時代は器楽部に所属しドラムを担当しつつ合唱コ

ンクルのピアノ伴奏を毎年やらせてもらったりと、音楽と共に多感な小中学生時代を過ごさせて頂きました。全体に自由な校風で個性的な先生方も多く、のびのびとやらせていただいた経験が現在の礎になっているように思います。

附属出身で音楽関係というところが、数年前に仕事で一緒にいらした、何枚かのアルバムにピアノストとして参加させていただきました。同じ学校出身同士で、時を経て仕事で再会するのは嬉しい事だねと、スタジオで感慨に耽った思い出があります。

一見華やかに見える職場ですが、実力プラス時代性がなければ淘汰されますし、地味な準備や雑務も多々あります。しかし好きな事を生業にさせてもらっているという充実感は何よりのモチベーションになり、世の皆様にご満足していただけるようなエンタテインメントを生み出すべく仕事に勤しむ毎日です。

日本で音楽活動をするには東京を拠点とした方が何かと便利だと

思い、二十代前半で威勢良く上京しましたが、離れてみて気付く京都の良さもたくさんありました。仕事と育児がひと段落したら故郷に帰りたいな、と思い始めています。今日この頃です。

◆平元年卒・中44期卒

佐竹美都子



京都市 北区に住む私は、区役所に行くたびに懐かしい風景と

出会います。そして「おはようの像」を見るたびに、着物を着た母とこの像の前で撮った写真を思い出します。

附属京都小学校・中学校を卒業して長い月日が経ちますが、私にとってはここでの経験、また友人が私の人生を大きく変えたといっても過言ではありません。それは小学校一年生からの友人に誘われ、ヨット競技との出会いがあったからです。

父から教わっていた剣道からヨットへ転向し、その友人と国体やインターハイなど大きな国内外の試合に出場し、二〇〇四年には日本代表としてアテネオリンピッククセーリング競技に参加させていただきました。メダル獲得は出来なかったものの、オリンピックを通じて海外での転戦や合宿など多くの貴重な経験をさせていただきました。

がむしろに競技へと向かうなかで、国際交流の場で自国への大きな誇りを持つ海外代表選手たちから「両親が着物を作っているのになぜ着ていないの?」と言われる、私自身が日本人として日本の伝統や文化の美学を何も語れなかったことで愕然としたことがありました。

その気づきから、現在は能学や華道など和の文化を学びながら、代々続く西陣織の家業を受け継ぎ、西陣では数少ない女性の作り手として活動しています。

しかしその後、東京オリンピックク誘致で国際委員との食事会にて「あなたが着物を着てくれたことはとてもうれしいけど、町で着物

を着ている人をあまり見ないね。」と言われてしまい、製作の仕事に加えて、二〇二〇年に向けて「きものでおもてなし」を掲げ、全国着物専門店と共に着物の輪(和)を広げる活動も始めました。

附属京都小学校で行った「観世会館」、「茶道会館」。また海への恐怖を無くした久美浜での大遠泳。体力の限界に挑んだ能力遠足。そして今でも交流の深い友人たち。

京都に生まれ育った私にとって、そのすべてが今の私につながっていると感じます。勉学以外にも多くの経験を与えてくれたこの学校に心から感謝しています。

これからは、減少する産地の中にある効率や利便性を越えた日本人の願いや祈りの思いを着物に乗せて、もの作りの現場から、共感してもらえた仲間と共に日本の素晴らしさを発信できるように歩みたいと思っています。

先生方、卒業生の皆様のご活躍を心よりお祈りしております。



年次だより

■小昭14年卒

六年生の後半だったと思う。南部の旧校舎に対する北部の新校舎が建て替えられ、卒業迄の僅かをそこで勉強出来ると先生から伝えられ一同歓声をあげた。そこには新しい講堂での卒業生の夢もあったかと思う。

旧校舎に対して新校舎。廊下一つにしても木煉瓦と違って実上品なもので今に残っているのか。もう一つ、文部行政の大きな変化とは言われたのは『サイタ サイタ サクラ ガ サイタ』の教科書であろうか。我々が使い始めて、兄等に好奇の眼で見られた昭和八年の春であった。続いて『コイ コイ シロ コイ』『ススメ ススメ ヘイタイ ススメ』だったと思う。

(玉木知男)

■小昭17年卒

午己会
七度目の当たり年も過ぎ、毎年行ってきた会も参加者が漸減して来たので最後の集いとなった。同級の仲間に茶道裏千家、千玄室氏の末弟故・大谷巳津彦君が居て、幼い時に裏千家で遊んだ事を思い出し、今日庵に集まりました。思

■小昭21年卒

昨年一〇月二日、三三人が有職京料理「西陣魚新」に集まった。首都圏をはじめ北海道など遠来を含め近年にない多勢だった。

野田輝子(旧姓平松)の提案で、彼女が主将を務め全国制覇を成した山城高バスケット部後輩が女将を務める魚新に設定。ところが直前で本人が急逝というハプニング。大勢が来てくれたのも彼女が呼び寄せたのだろう。一同故人を偲ぶ。

数日前、御嶽山の噴火というサプライズが起きたが、その北麓開田高原山荘から小室が、前年大手術で起死回生の武田が北海道から、今春新幹線開通の準備に多忙な高田が北陸から馳せ参じてくれた。何十年ぶりという珍客も居て世話人は勿論、地元京都組には大変嬉しいことだった。

一七〇年も続く老舗の伝統料理、著名作者の書画や女将達の歓待に参加者は感動。中締め後二次

(野村英男)

■小昭23年卒・中3期卒

附三会(昭和一〇年誕生、小学校昭和二三年三月卒業、中学校第三期)の同窓会が平成二六年一〇月二〇日、京都四条大橋近くの「東華菜館」で開催された。在籍八二名中二九名が出席、二年ぶりの楽しい会だった。

二年後は八〇歳を超えるので今

会も殆ど全員が近況や懐古談に興じ、予定を大幅に過ぎす程の盛況でした。

(滝野喜八郎)



年で最後にしようという意見もあったが、結局次回も続けることになった。

(佐谷克己)

■小昭24年卒・中4期卒

小・中両方の卒業年度を標記する長々しい同期会の名称は面倒なので、かつて西ゾーン三階にあった作法室「紫雲閣」にあやかって私たちの同期会は「紫雲会」と名乗らせていただくことにしました。

附中三・四期生で構成されたゴルフコンペが、病人や物故者が増え、今ではメンバーが激減していますが、ともかく続けています。変わって、基会が始まり、月の第三月曜を定例として、日本棋院京都支部の基会場で六〜七人が集まって腕を磨いています。

ゴルフ・基に関して、学年にこだわっていませんので、他の学年からの参加も大歓迎です。

昨年十一月三日、ノヴァーク武居順子さんが久しぶりにドイツから帰国されたのを機に、十数人が京都プリンスホテルに集まり、旧交を温められました。

今年は、秋に学年同窓会を開きたいと考えていますので、案内を楽しみにお待ちください。

ここしばらく、同期の会の始まりに「黙祷」がなかったのですが、昨夏、渡部茂君、今年に入って平井牧君を喪いました。合掌。

(迫田恒夫)

■小昭25年卒・中5期卒

東京五期会には現在二九名の在関東附属京都中学五期卒のメンバーがおります。ほとんどのものが、一九四四(昭和一九年)国民学校入学、一九五三(昭和二八年)附属中学校を卒業しています。

在京の大学時代の頃から同期で集まり始め、就職で東京勤務、また結婚で東京転居の方も増えて、一九六三年頃から同期の集まりを持つています。そのうちにそれぞれが仕事で忙しくなったり、海外勤務のものが始め、集まりを持つていことがかなり難しくなりました。

また、集まりが再開されたのは我々が五〇才近くになってからです。多少、生活に時間的余裕が出て来たのかもしれない。時折の集まりに加えて、箱根、佐渡、熱

海など泊まりがけの小旅行にも出かけるようになりました。

旅行が出来るようになったのはたまたま旅行会社に勤務するものが出て、面倒がらずに種々企画してくれて、引つ張ってくれたのが幸いでした。海外旅行も一九九五のハワイ旅行を初めに、ほぼ毎年のようにバリ島、バンコク、台湾、米国西岸などにも出かけました。

われわれも喜寿を迎え、亡くなる方もこのところポチポチ出始める年齢になりました。そのため、毎月第四水曜日に数寄屋橋にあるおで夕食会を行っていました。が、夜は出にくいという声もあり、最近は昼食会に変更しています。この四水会は出欠をとっておりませんが、毎月一二〜三名は集まっています。

一月の四水会は新年会にしていますが、例年、二〇数名が集まり盛会です。いつもたわいない話題で賑やかに歓談しています。この集まりがいつまで続くか分かりませんが、誰かが動けるうちは開いていきたいと思っています。

(坂田 愷)

■小昭26年卒・中6期卒

私たち昭和一三年寅年生まれの同期生は、昨年、数えの喜寿を迎えました。

昨秋、四〇人ほどが集い、同窓会をひらきました。皆、それなりに元気でした。話題の多くは、自分の病苦と健康法の披露でしたが、皆、心は清々しく、「楽未央」、楽しみ未だ央ばなり、を実感いたしました。

ことに茶の世界では、喜寿を自他ともにお祝いする習いがあります。私もこの春から二年ほどかけて、「喜寿の茶事」をひらいています。

これからも子や孫の世代に、自分が受け継いできたものを大切に伝え、そして人生を大いに楽しみ、心豊かな日々を送りたいと思います。

(千 宗左)

■小昭28年卒・中8期卒

今回の同窓会はB組担当でした。今まで秋にする事が多かったのですが、今回は春にしてみようという事になり二〇一四年四月

一三日(日)に開催されました。場所は京都ホテルオークラで午後一時～三時。二次会は午後三時～五時で行われました。出席者はA組一五名、B組一七名、C組一五名、合計四七名と多くの方に出席していただきました。また遠くからの人も沢山おられました。中には車イスで奥様と一緒に来られた方もありました。一人ずつ順番に近況報告、健康の話や孫の話など、ショートスピーチをしてひとときを過ごしました。

久し振りの幼馴染の話に一同大爆笑したり、しみじみしたり、悲しい話に胸をいためたりしました。それぞれ皆後期高齢者手前の年齢にもかかわらず、元気にやっておられる様子を、今後も元気で次回再会を約束して、一次会は終わり、続いてゆつくり話の出来なかつた人達と二次会で楽しく過ごすことが出来た一日でした。

(加藤二郎)



■小昭29年卒・中9期卒

平成二五年度フクミニ会

六巡目の年男・年女になった節目の同窓会を、平成二五年一〇月二日に昔懐かしい附属京都小学校舎見学の企画を入れて開催しました。ご案内いただいた初等部教頭(当時)の垂井由博先生は、我々の恩師垂井由継先生のご子息であることがわかり、ご縁に驚くとともに時代の流れを実感しました。屋上に上がって美しい比叡山を



バックに記念撮影をしました。

(八木健吉)

■小昭31年卒・中11期卒

それまでも中学の三クラスそ

平成二六年度フクミニ会
平成二六年一〇月七日に京都セ
ンチュリーホテルで開催しまし
た。出席、欠席を問わず多数から
寄せられた近況報告を幹事が小冊
子にまとめて皆さんに渡し、年に
一度の交流が楽しく行えました。

(竹内俊樹)

それまでも中学の三クラスそれぞれでのクラス会、学年全体などで、時に応じて集まりを持っていたが、中学の一期生としてイレブン会と名前をつけ、数年前からかなり組織的、定期的に集まりを持つようになった。以後毎月、同期生の岡田君の店、「木屋町露瑚」で月例夕食会を開いている。この会には、毎回吉岡克己先生が出席してくださり、先頭に立って会の維持発展へ貢献していただいている。

新年会は隔年で開催している。昨年は全員の古稀の祝いを兼ねて行い、米寿の広瀬先生にもご出席いただいた。この時から小学校で附属を離れた方たちも仲間に加わった。

有志のグループでは登山を月に一度行い、夏には毎年アルプスなどへ行っている。昨年は御嶽山へ行き、直後の噴火で肝をひやしたそう。高山はそろそろ年寄りの冷や水になりつつある？

一方、別に卓球のグループ、野



業作りのグルーブなどもあり、皆さん旧友との楽しみに昔を懐かしんでおられるようだ。

(小出正信)

■小昭32年卒・中12期卒

平成二六年一月に、二年毎の



同期会C組幹事により「古稀同期会」と銘打って京都のホテルで開催されました。当日は恩師の畑井先生、小林先生、山川先生にご出席いただき、ペルーや米国在住者を含め五九人が集まりました。

会の前に母校の音楽室で小林先生の指揮のもと懐かしい唱歌を力一杯合唱し、その後小・中学校内を見学し、思い出に耽りました。

ホテルでの懇親会の二時間はあつと言う間に過ぎ、旧交を温め合うには不十分で、多数の人が二次会に繰り出し、日付が変わる頃まで歓談しました。

とても古稀とは思えない元気な七〇歳の面々でした。

次回はB組幹事により二年後に開催の予定です。

(鶴木孝典・石川 卓)

■小昭33年卒・中13期卒

東京で同期有志の会を開催

古希となった我々は、昨年五月に京都で同期会を開催、一月前に東京で同期有志の会を開催しました。

一五名の同期がパレスホテルに集まり、近況報告など楽しい会話



と美味しい食事。その後、秋晴れで清々しい東御苑(天皇・皇后両陛下お住まいの皇居の一角で、昔の江戸城跡)を散策。参加者一同、楽しい気持ちの良い時間を過ごしました。

(長谷川博二)

■小昭34年卒・中14期卒

古稀記念マラソン同窓会

今年で古稀を迎える。

思えばよう生きた。いろんな事が走馬燈のように駆け巡る。附属の時代は何かと初々しく、輝かしい時であったことか。

そうだ！同窓会の集大成のような集いをやろう。この先いつ会えるか判らん。思春期の淡い思いを残してあと幾歳かを生きるより、今でしょう。すべてを吐き出し、揚々と次の時代に臨みましょう。人は懐かしい思い出に浸り人生を航海するものです。今年の同窓会は二四時間のマラソン大会にしよう。甘い思いに浸るのもあり。現実の日々を如何に生きるか等のトークショー。相続法律相談、健康相談、さらには二四時間温泉三昧。これでもかあ。もう二度と同窓会なんかせえへんと思うような集いにしたいものだ。京都に生まれて良かった。附属に入って良かったと思う人は、この指さわれ！連れもっていら！

(三宅利幸)



■小昭39年卒・中19期卒

懐かしい恩師三名、友四四名が京都八瀬に集う（二〇一四年三月九日）。卒業の昭和三十九年は東京五輪開催、新幹線開通など、記憶に残る年。その後五〇年で日本は大きく変貌を遂げるも、先生や友との深い絆は変わらない。転校



生の参加も語らいを一層盛り上げ、時は瞬く間に過ぎる。再会を誓う見事な一本締めで目出度くお開き！

（榊井敬弘）

■小昭42年卒・中22期卒

平成二六年六月七日、ロイヤルホテルに於いて、京都教育大学



■小昭46年卒・中26期卒

附属京都中学校二二期同窓会を行いました。還暦となる年の同窓会ということで、ドレスコードは「赤い」ものを身につけようとの呼びかけで、参加者は工夫をこらして集まりました。先生五名、同窓生六一名が久し振りに顔を合わせ、思い出話や近況に花を咲かせました。

（吉竹好美）

毎回この「東櫻だより」を拝見しますと、同級生を懐かしむ気持ちを抱きながらも、私たちの学年同窓会は、もう長年にわたって開かれておりません。お世話くださったっていた方の転勤などで、幹事となる人がいなくなってしまったからです。今は皆さんがそれぞれに、高校の同窓生投稿サイトや、フェイスブックなどでお互いの近況を知ることができ、その繋がりを大切にされています。しかし、久しぶりに全体での同窓会を開いてほしいという声も多く聞かれます。

私自身も京都にいますが、余裕のない日常を送っています。

近いうちに同窓会のご報告が書けるように、呼びかけてみたいと思っています。

（柱本めぐみ）

■小昭47年卒・中27期卒

小中同窓会
平成二七年一月三日、京都ロイヤルホテルで小中合同の同窓会を開催しました。今回は初めてお昼





の開催となりました。同窓生の大概くん、塩田（都）さんと私の三人が幹事役となり、迫田先生、大橋先生、小寺先生をお招きし、三三名が参加して楽しいひとときを過ごしました。二次会も同ホテル内に会場を用意したため、ほとんどが参加しました。

（荻野晋也）

■ 小昭59年卒・中39期卒

平成二六年六月二八日京都ホテル



ルオークラにて！

今回は幹事学年でしたので、たくさんさんの同窓生やお世話になった先生方とお会いすることができました。小中学校を卒業してからウン十年も経つと、好きなどころは大好きに！嫌だったところは愛おしく思えるように！？なって、本当に楽しかったです（笑）。

また集まりましたよ。

（土田敬子）

■ 小昭62年卒・中42期卒

偶然二組の同窓生同士の結婚を期に、久しぶりに行われた同窓会。丁度、四十路を迎える節目の年でもありました。小中合めての同窓

会が開催されたのは初めてであ

り、久しぶりに会う同窓生のために名札を用意。そして、壇上にて自己紹介タイムを行い、近況を知ることができました。顔を合わせることが卒業式以来という同窓生もいる中、すぐに当時の雰囲気に戻れるのは、不思議なものです。

（堀部智久）

■ 小昭63年卒・中43期卒

私達同期生もうアラフォー

世代。卒業して約二五年。その間に各々が国内・海外で活躍しています。

来たる平成二九年に開催されます東櫻同窓会「つどいの会」の幹事学年になりました。学年理事だけでなく、多くの方に協力していただき感謝しています。今後もFacebookのグループ「附属京中四三期、京小昭六三年卒（一九七五―六年生まれ）」などを通じ随時お知らせしますので、宜しくお願ひします。

（市村浩隆）

■ 小平元年卒・中44期卒

去る二〇一四年五月二日に、連絡がつく範囲ではありましたが、小中合同の同窓会が四条烏丸近辺で開催されました。約四〇名の参加があり、平日の夜にも関わらず、遠方からの参加もありました。小中学校の記憶を呼び起こすためのクイズ大会も大いに盛り上がり、近況報告から思い出話まで話が尽きませんでした。

（上田亜季）

■ 小平9年卒・中52期卒

みなさんお元気ですか？中学校を卒業して早一五年……子育て真っ盛り、仕事に全力投球、海外で活躍中、など公私共々あの頃からは全く想像できない日々を送られているかと思えます。

さて少々個人的な話にはなりませんが、昨年、同窓生三名と集まる機会がありました。題して「一年ろ組・前田学級同窓会」、と言っても諸先輩方のような立派な同窓会とは程遠く、何ともこぢんまりした会ですが。各々の近況報告もそこそこに、「そんなことあった

ね」と笑いの絶えない時間はあつと言う間に過ぎていき、「次は思い出の校舎を見に行こう！」と話してお開きとなりました。おはよりの像、グラウンドのブランコ、附属の森、どれも思い出すだけで今から胸が高鳴ります。次回の参加者、絶賛募集中です！

(久保田朋子)

■小平11年卒・中54期卒

皆様お久しぶりです。一年ぶりの寄稿になります。私は特段代わり映えのしない毎日を過ごしていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、来年には我々はもう三〇歳になりますが、最近年賀状などで同窓生の方々から「実は結婚しました」「実はこどもが生まれていました」という連絡をいただくようになりました。さらに、今年の四月には同窓生の結婚式に招かれ、よく知る顔だけでなく、懐かしい顔とも再会し、昔話に花を咲かせることができました。もちろん式の方は笑いあり涙ありの素晴らしいものであったことは言うまでもありません。

短くなりましたが、皆様にいつの日かお会いできることを楽しみにしています。それでは。

(奥田将吏)

■小平12年卒・中55期卒

この度は「東櫻だより」への記事掲載のお話を頂き、誠にありがとうございます。小学校卒業は一五年前、中学校卒業は一二年前のことになるようです。

現在、私は東京に本社を置く「青い看板」が目印の会社で仕事をしております。仕事を始めた際は震災直後の東北でしたが、そこから何故か本社の不動産管理部門へ異動。管轄エリアが広く、関東甲信越全域を訪ねながらの仕事です。社会人になり、周りの状況が変化していく中で、自分を過去や原点に引き戻してくれるのは友人の存在です。京都に帰省するタイミングで、気の合う友人たちと会って語らう。友人たちも結婚したり、親になったりと身の回りの変化は生じていますが、根本は変わらなない。そんな友人たちとの時間はかけがえないものであると感じます。卒業してもつながり続けてい

る。これが附属生の良いところ。そんな友人たちと出会えたことに感謝しています。

(西田将也)

■小平17年卒・中60期卒

大学生にもなると、中学や高校の友達が今なにをしているかそうそうわかるものではないのですが、今はFacebookという便利なものがあります。またFacebookは日本の友達だけでなく、海外の友達の動向を知るにも大変便利です。

私は中学の頃、タイのアユタヤの学校に交換留学生として行きました。アユタヤの学校からの生徒も日本に来て、私の家にホームステイしました。当然ですがタイ人の友達がたくさんできました。彼らも私の同窓生です。

そして先日タイに遊びに行き、Facebookで連絡をとることで彼らと再会を果たしたのです。Facebookの便利さを改めて実感します。しかしオンライン上での関係だけでなく、やはり実際に会うこともまた必要だと実感したのです。実際に会わないとわからない

いこともあるのです(たとえば「彼」が「彼女」になっていたり)。ではみなさんの活躍をこれからもFacebookを通して。

(小谷俊輔)

訂正とお詫び

「東櫻だより」第二号(平成二六年四月)「年次だより」におきまして、小中同窓会の合併にともない、中学創設以後の学年については、小学校卒業の三年後に中学を卒業された学年を同期として記載しております。この中で、「小昭21年卒・中1期卒」という記述をしておりますが、この学年は学制改革の時期にあたり、「小昭21年卒」と「中1期卒」は卒業生徒がまったく異なるというご指摘をいただきました。この件については、統合名簿作成の際にもご指摘いただいておりますが、名簿委員と広報委員で情報の共有ができておらず、このような記述となり、誠に失礼いたしました。両年次の方々にお詫びするとともに本記述を「小昭21年卒」と訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。

名簿委員会よりお願い

筑摩・梅垣

同窓生の諸先輩並びに皆様、こんにちは。今回も皆様のお手元に東櫻同窓会の冊子が届き、目を通していただき嬉しく思っております。懐かしい母校の様子や、恩師や同窓生の近況などに、しばし思いをさせておられることと思います。

さて、この東櫻だよりがどのようにして皆様のお手元に届くのか、ご存知でしょうか。

「そら、他のダイレクトメールと同じ。業者に頼んで配達されてくる。」

と思われる方もおられると思いますが。しかし、その裏には、色々な同窓会のお仕事があるのです。

東櫻だよりを印刷するにも、送付するにも費用がかかるので、

「今時だから、ホームページで見てもらったらいいのではないか。（ホームページもご覧ください）」という考えも出てきましたが、

「でも、皆さんが見ることができるとは限らないのではないか。」

「やはり母校の様子や、諸先生並びに先輩方のご活躍を、冊子でお手元にお届けするのが大切だ。」
「総会のこと、丁寧にお知らせして、多くの方々に集まっていたきたい。」

と（ホームページ委員会も立ち上げて載せていますが）、一人でも多くの方々のお手元に届けたいと同窓会理事一同努めております。

広報委員と担当学年の実行委員が、掲載記事の内容の検討を重ねて印刷に回し、東櫻だよりが出来上がります。そして、学年理事さんや多くの有志の同窓生にお手伝いいただき、発送作業（封筒に入れて、宛先のシールを貼り、発送先に分けて数を読んで束ねていく等）を毎回行っています。

さて、この名簿ですが、小中同窓会の名簿を一つにする作業も大変な作業でした。住所の表記の文字や、番地の書き方（一〇の一と一〇一）が違うだけでも、二重に名簿が上がってきってしまうので

す。同窓生の皆様の中には、二重封筒が送られてきて、「あれ？」と思われる方々もおられたこと思っています。お詫び申し上げます。名簿統合の作業も落ち着いてきてはいますが、まだそのような失礼がありましたら、遠慮なく同窓会へお知らせください。よろしくお願ひいたします。

毎回、発送後に未配達の封書がたくさん戻ってきて、とても残念に思っております。そこで、昨年は、配達できなかったリストを、学年ごと（小学校何年卒と中学校何期卒）に仕分けし、住所不明の方々のリストを、現状を説明しながら、各学年の名簿委員の方々に

お配りしました。そして、各学年同窓会や年賀状などから情報を集めておいていただき、今年の二月くらいから、恒例の名簿訂正をお願いし、返送していただいたデータで名簿の訂正を行いました。

各学年の名簿委員の方々には毎回お手数をおかけしており、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

そこで、会員の皆様へお願いです。未配達の原因の多くは転居先不明ですが、中には住所が

「三〇一―三〇五」というように、マンション名が省略されていたり、**町名が略**されていたりして

配達されないこともあります。ですから、皆様、住所変更などがあれば、マンション名や町名を略さずに正しく、各学年の名簿委員の方までお知らせください。そして、一人でも多くの方々に、東櫻だよりをお届けできますようお願いいたします。

恩師のご表彰

迫田 敏暉先生

平成二六年秋の表彰で瑞宝双光章を受章

昭和四八年四月から昭和五五年三月まで附属京都小学校にご勤務
おめでとございました。

恩師のご消息

山本 一雄先生

平成二七年三月ご逝去
昭和五五年四月から昭和六二年三月まで附属京都小学校にご勤務

心から哀悼の意を表します。

同窓会への寄付のお願い

常任理事会理事長 中西 秀彦

平素は当同窓会へのご協力まことにありがとうございます。

同窓会会費につきましては、小中同窓会の統合後、入学時の終身会費制度に移行いたしました。しかし、今後、学校の生徒定員減があると伺っており、この終身会費だけでは同窓会の活動がまかなえない事態となることが予想されます。また同窓会としての後輩達の活動の補助、卒業記念品の贈呈などを入学時におさめていただいた終身会費からのみ支出するというのは本末転倒にも思えます。

そこで同窓会の会員の皆様におかれましては、同窓会への寄付をお願いいたしたく存じます。前小学校東櫻同窓会の会費が三〇〇〇円でしたので、一口三〇〇〇円といたしますが、何口でも結構ですので、ご寄付いただけましたら幸いです。

寄付については、同封の振替用紙をご使用いただくか、インターネットバンキングで

ゆうちょ銀行 当座 一〇九店 0015200

宛お振り込みくださいますようお願い致します。

皆様のご理解とご協力をこの場をお借りして、心よりお願い申し上げます。

編集後記

今回の「同窓生のつどい」の開催に向けた実行委員会は、小学校昭和六二年から平成元年卒、および中学校四二期から四四期までの同窓生で構成されます。七代目の実行委員となる私たちは、昨年六月の「同窓生のつどい」に参加し、大勢の方々による盛大な会を目の当たりにして、その責任の重大さに身が震える思いをしました。

そして、前幹事の方々から引き継ぎを終えて迎えた最初の大きな仕事集でした。かつて同じ学び舎で先輩・後輩の關係にあつた三学年が、およそ四半世紀の時を超えて母校のラウンジルームに再び集結し、学年の枠を取り払って編集活動に取り組むことに何とも不思議な気持ちがありました。今となつてはそれもごく自然の光景となりましたが、他では得られない貴重な経験をさせて頂いているという初心をいつまでも大切にしながら、皆で大役を務め上げたと思います。

この度ご寄稿頂きました方々、編集にご協力頂きました皆様にご利用の場をお借りして心より御礼申し

上げます。

この先も三学年の協力体制を強化させながら、二年後の「同窓生のつどい」の開催に向けた準備、そして、次号の編集に取り組んで参りますので、引き続きご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、前号の「編集後記」の一部表現についてお詫び申し上げますとともに、総会にてお配りしましたお詫びを以下に掲載いたします。

『東櫻だより』第二号の『編集後記』に『前回のつどい時に一部の心無い方が起こされた非常識な言動』に頭を痛めている旨の記載がありました。したが、この趣旨は、会の進行には枉げて皆さま協力を頂きたく、他の出席者らの迷惑になるような言動はご遠慮頂き、有意義な同窓会にしたとの理事会側の意図を記載したもので、特定の方の名譽を毀損する意図で掲載したものではありません。気分を害された方にはお詫び致します。他意はありません。前回は主催者側でも企画の時間配分が拙く、一部の方から不評もありましたので、今回は歓談に移るまでの時間を短くするよう努めました。皆さま節度を守り楽しい同窓会に致しましょう。」

(編集委員長)

同窓生のつどい



乾杯



鏡開き



吹奏楽部の演奏



古川展生さんの
スペシャルチェロコンサート



アンサンブル東櫻のコーラス



福引き